

結果の概要

1 予約の状況、診察等までの待ち時間、診察時間（外来患者のみ）

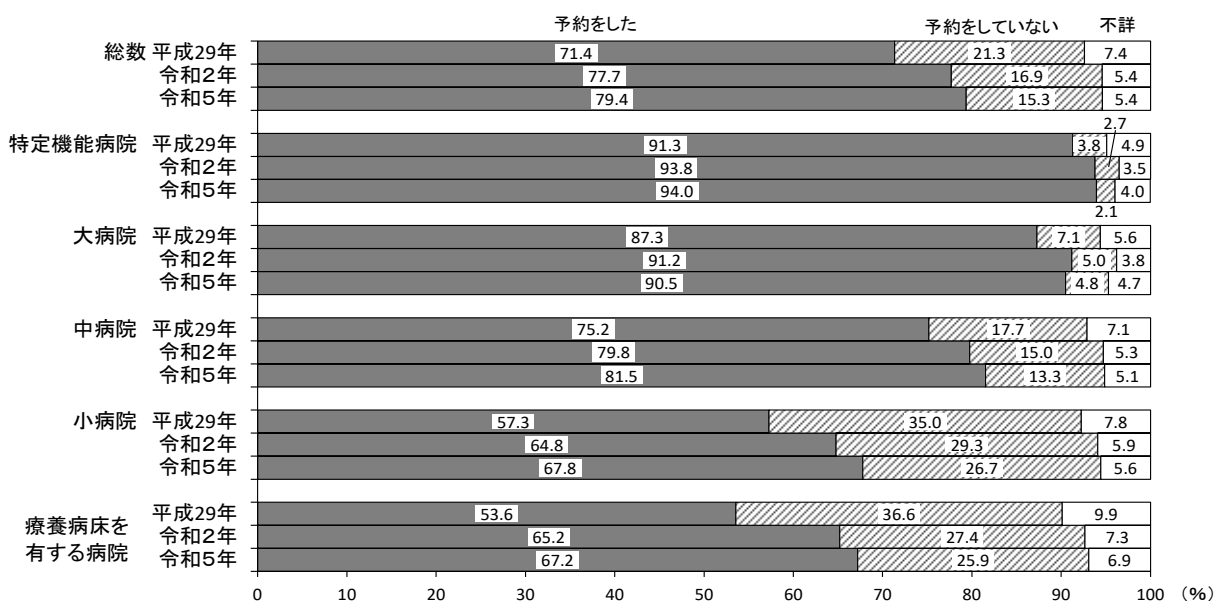
（1）予約の状況

外来患者の予約の状況をみると、「予約をした」は79.4%となっている。

病院の種類別にみると、「予約をした」は特定機能病院が94.0%と最も高い。次いで、大病院が90.5%、中病院が81.5%となっている。

また、前回と比べると、小病院で「予約をした」が3.0ポイント上昇している。（図1）

図1 病院の種類別にみた外来患者の予約の状況（基本集計）

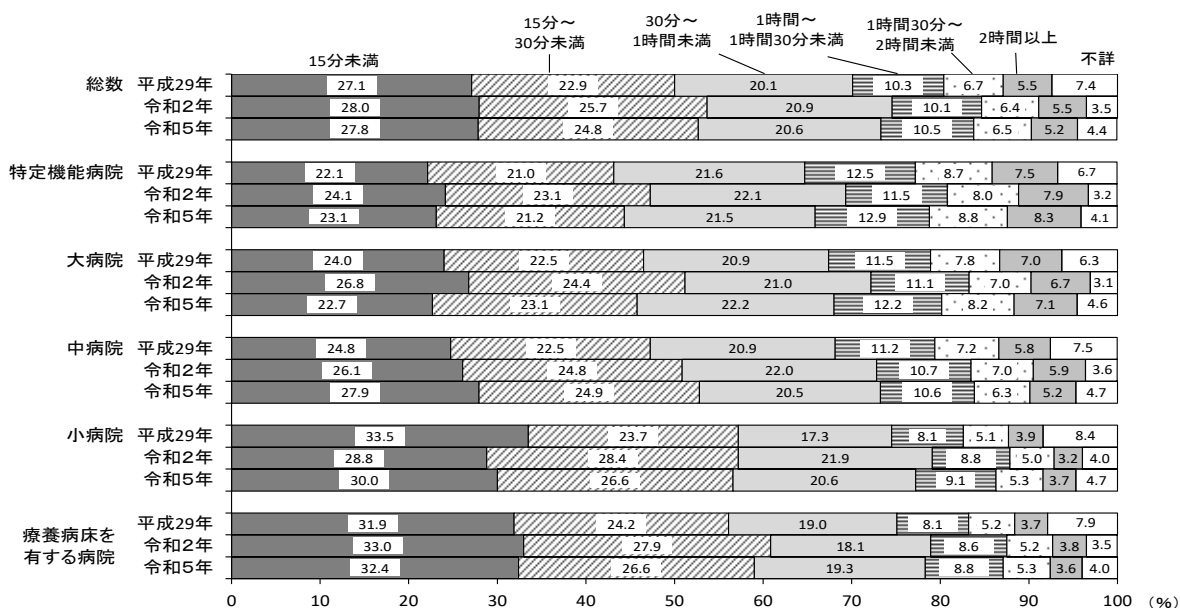


（2）診察等までの待ち時間

外来患者の診察等までの待ち時間をみると、「15分未満」が27.8%と最も多く、次いで、「15分～30分未満」が24.8%、「30分～1時間未満」が20.6%となっており、1時間未満（「15分未満」「15分～30分未満」「30分～1時間未満」）が約7割となっている（図2、統計表1）。

病院の種類別にみると、大病院を除く全ての病院で「15分未満」が最も多くなっている（図2）。

図2 病院の種類別にみた外来患者の診察等までの待ち時間（基本集計）



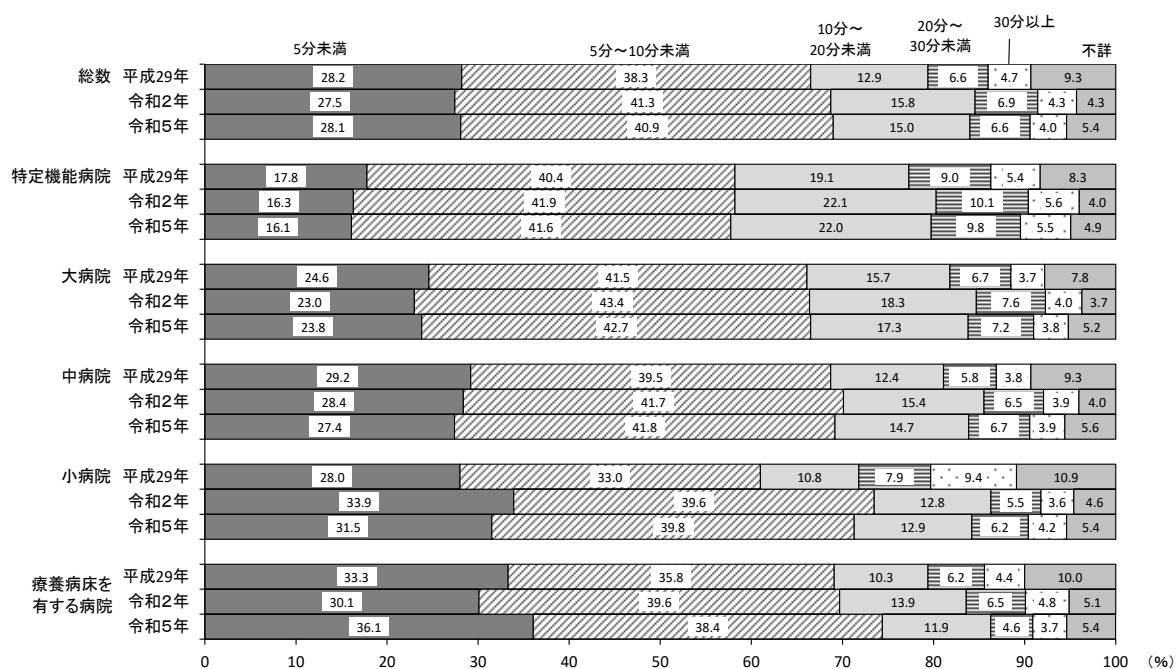
注：「2時間以上」は「2時間～3時間未満」「3時間以上」の合計である。

(3) 病院の種類別にみた診察時間

外来患者の診察時間をみると、「5分～10分未満」が40.9%と最も多く、次いで、「5分未満」が28.1%、「10分～20分未満」が15.0%となっている(図3、統計表2)。

病院の種類別にみると、「5分未満」は療養病床を有する病院で36.1%と最も高く、特定機能病院で16.1%と最も低くなっている(図3)。

図3 病院の種類別にみた外来患者の診察時間(基本集計)



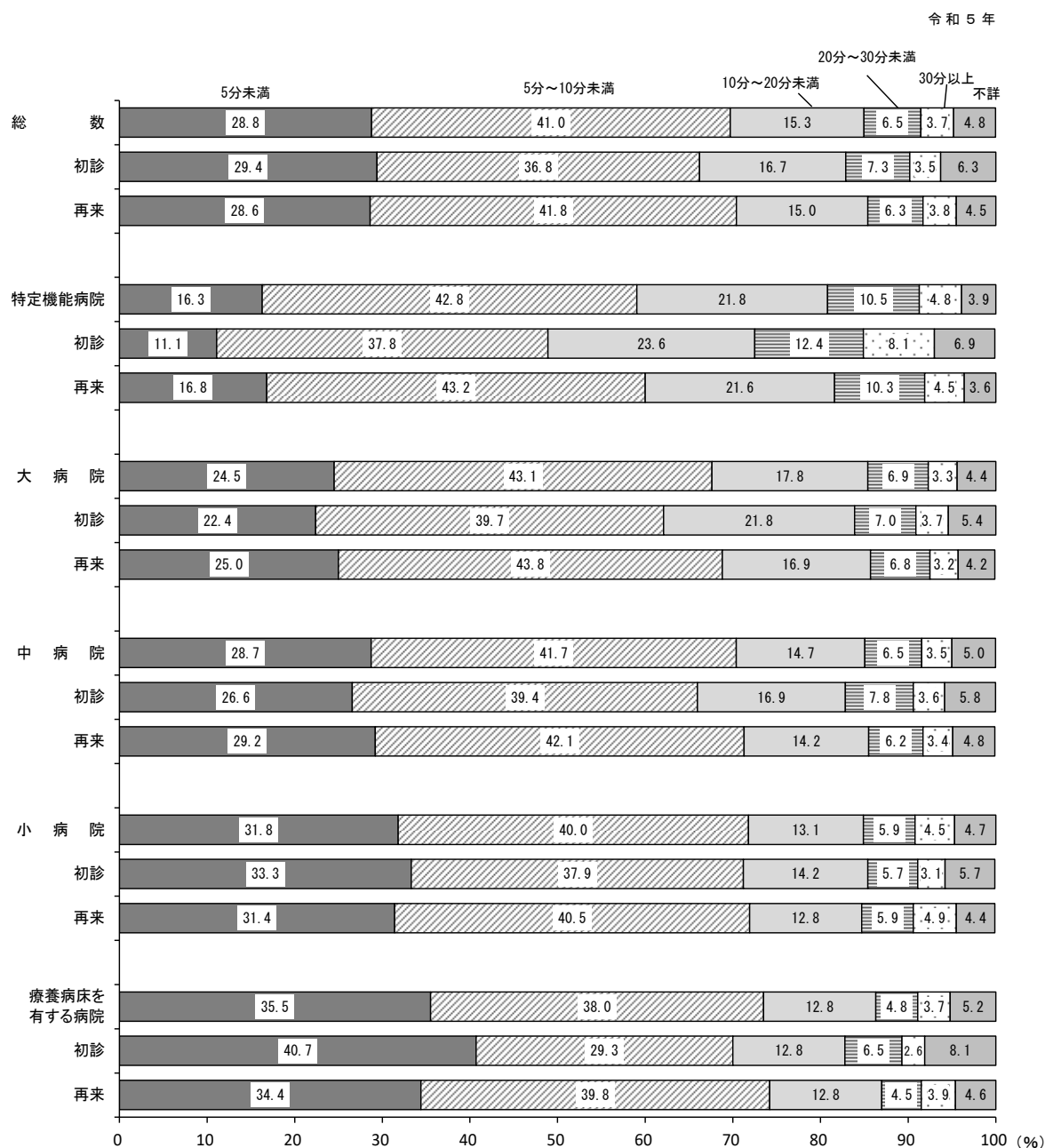
注:「医師に診てもらっていない」者を除いた数値である。

(4) 初診・再来別にみた診察時間 【関連集計】

外来患者の診察時間を初診・再来別にみると、初診・再来ともに「5分～10分未満」が初診36.8%、再来41.8%と最も多く、次いで「5分未満」が初診で29.4%、再来で28.6%となっている。

病院の種類別にみると、特定機能病院、大病院、中病院では、「5分未満」は初診より再来で高くなっている。(図4)

図4 病院の種類、初診・再来別にみた外来患者の診察時間(関連集計)



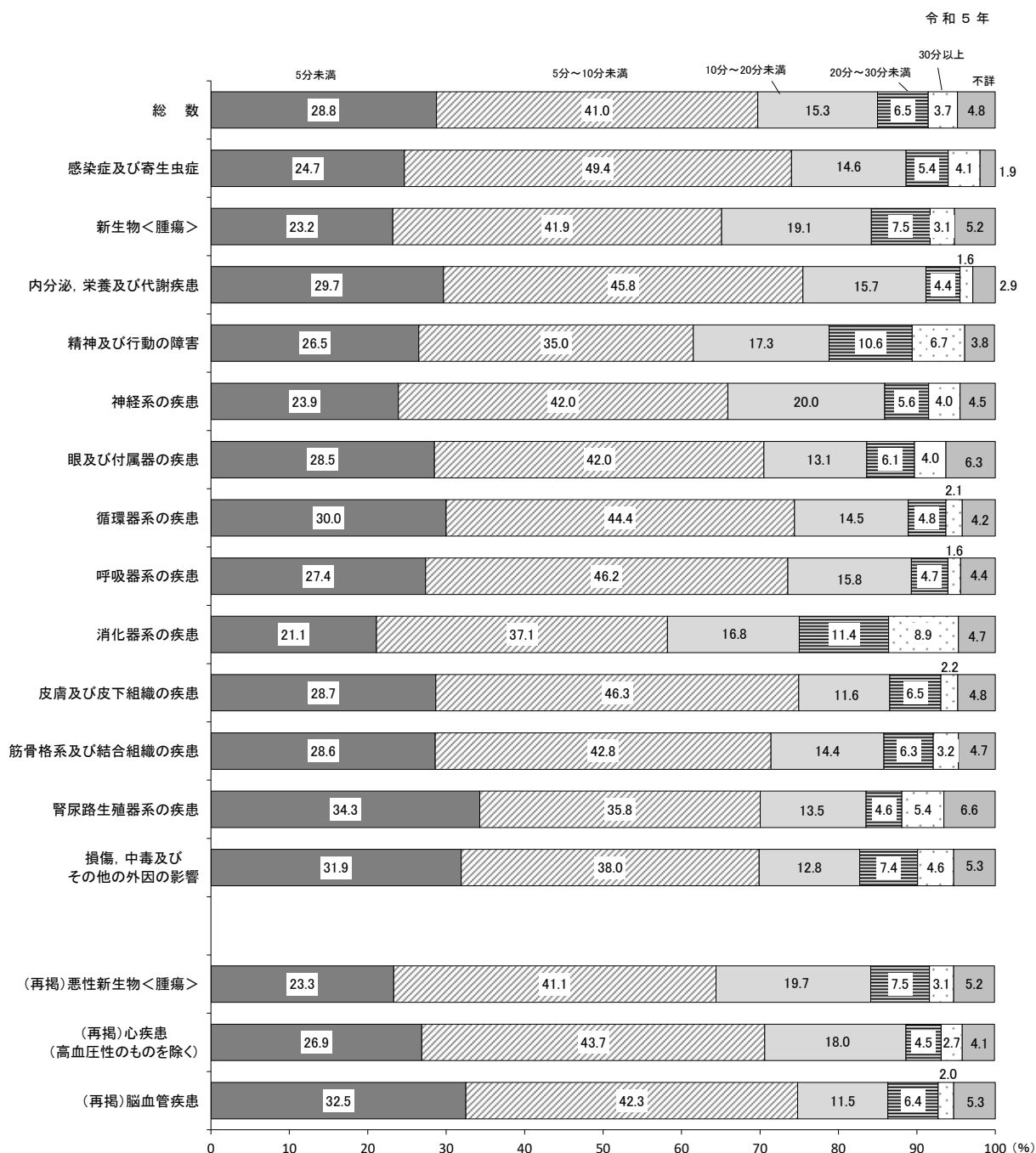
注:1)「医師に診てもらっていない」者を除いた数値である。

2)「初診・再来」は、令和5年(2023)患者調査(医療施設の管理者が記入する方式により調査を行ったもの)とのデータ・リンケージにより得られた調査票情報を用いて集計している。

(5) 主な傷病分類別にみた診察時間 【関連集計】

外来患者の診察時間を主な傷病分類別にみると、「5 分未満」は「腎尿路生殖器系の疾患」で 34.3%、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」で 31.9%、「30 分以上」は「消化器系の疾患」で 8.9%、「精神及び行動の障害」で 6.7%と高くなっている(図5、統計表3)。

図5 主な傷病分類別にみた外来患者の診察時間(関連集計)



注:1)「医師に診てもらっていない」者を除いた数値である。

2)「主な傷病分類」は、令和5年(2023)患者調査(医療施設の管理者が記入する方式により調査を行ったもの)とのデータ・リンケージにより得られた調査票情報を用いて集計している。

2 自覚症状の有無、自覚症状はなかったが受診した理由、受診までの期間（外来患者のみ）

（１）自覚症状の有無、自覚症状はなかったが受診した理由

外来患者が、調査日現在に受診した病気や症状を初めて医師に診てもらった時、「自覚症状があった」は 66.3%、「自覚症状がなかった」は 28.1%となっている（図6、統計表4）。

「自覚症状がなかった」と回答した者の受診した理由をみると、「健康診断（人間ドックを含む）で指摘された」が 45.2%と最も高くなっている。

また、年次推移をみると、「健康診断（人間ドックを含む）で指摘された」が上昇している。（図7、統計表4）

図6 外来患者の自覚症状の有無（基本集計）

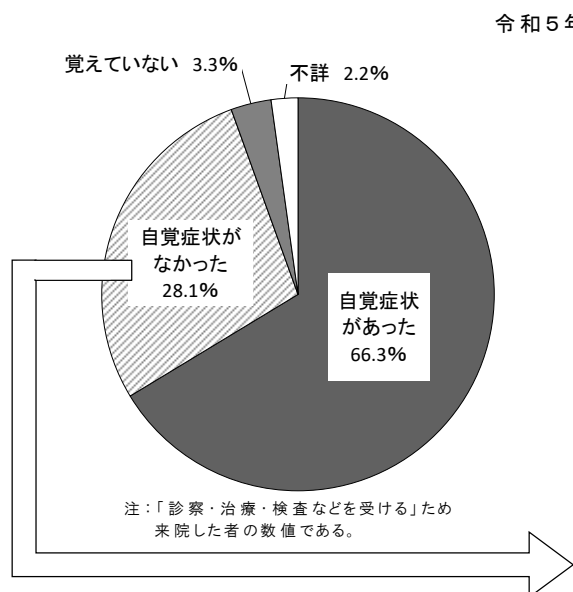
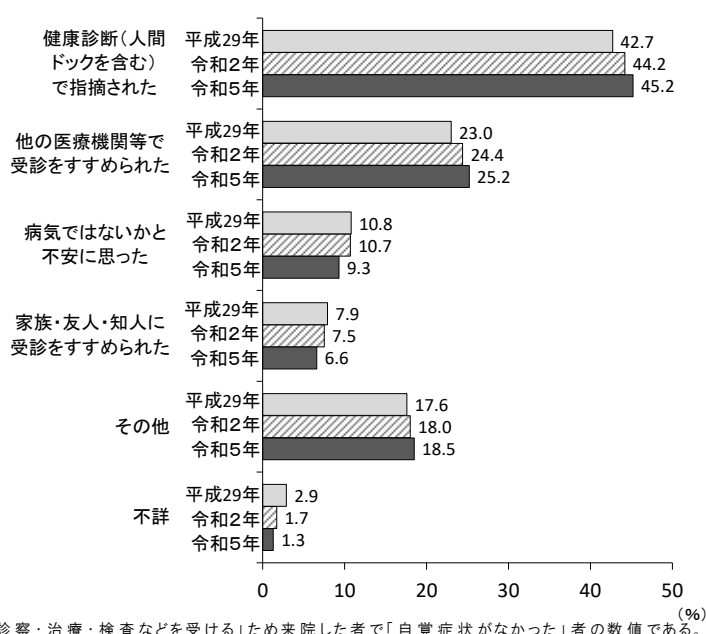


図7 外来患者の自覚症状はなかったが受診した理由（複数回答）（基本集計）



（２）受診までの期間

「自覚症状があった」「自覚症状がなかった」と回答した者について、受診までの期間（症状を自覚した時から、又は自覚症状がなかったが受診した理由が生じた時から最初の受診までの期間）をみると、「1週間～1か月未満」が 19.8%と最も多く、次いで、「1～3日」が 15.0%となっている。

自覚症状の有無別にみると、「自覚症状があった」では「1～3日」が 17.7%と最も多く、「自覚症状がなかった」では「1週間～1か月未満」が 25.4%と最も多くなっている。（表1、統計表5）

表1 自覚症状の有無別にみた外来患者の受診までの期間（基本集計）

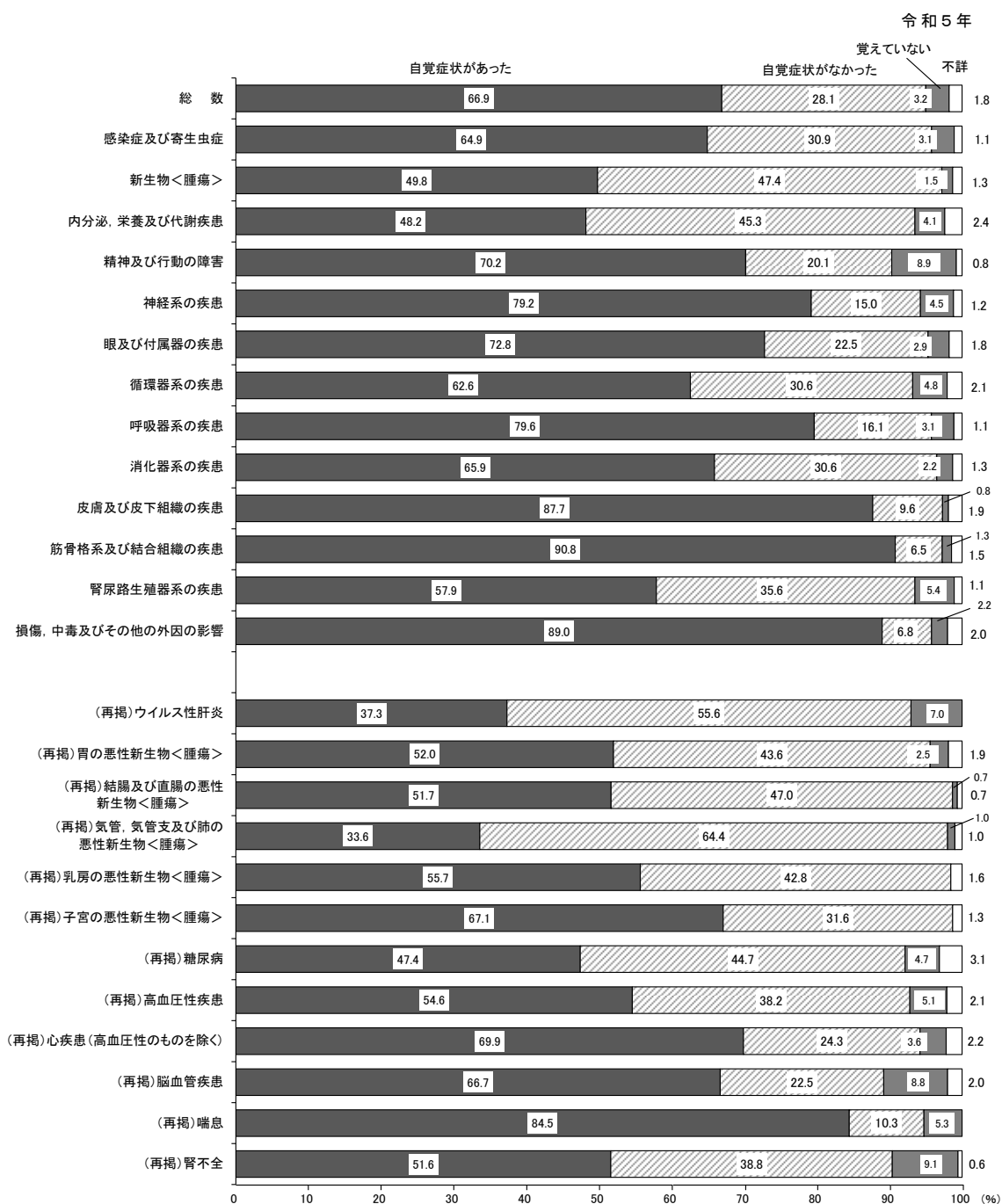
(単位: %)		令和5年							
	総数	24時間未満	1～3日	4～6日	1週間～1か月未満	1か月～3か月未満	3か月以上	覚えていない	不詳
総数	100.0	11.4	15.0	8.4	19.8	11.7	11.9	14.4	7.3
自覚症状があった	100.0	13.8	17.7	8.8	17.5	11.0	13.5	12.5	5.1
自覚症状がなかった	100.0	5.6	8.7	7.5	25.4	13.5	8.0	18.8	12.6

注：「診察・治療・検査などを受ける」ため来院した者で、「自覚症状があった」者及び「自覚症状がなかった」者の数値である。

（３）主な傷病分類別にみた自覚症状の有無 【関連集計】

自覚症状の有無を主な傷病分類別にみると、「自覚症状がなかった」は「新生物＜腫瘍＞」で47.4%、「内分泌，栄養及び代謝疾患」で45.3%と高くなっている（図8、統計表6）。

図8 主な傷病分類別にみた外来患者の自覚症状の有無（関連集計）



注：1）「診察・治療・検査などを受ける」ため来院した者の数値である。

2）「主な傷病分類」は、令和5年（2023）患者調査（医療施設の管理者が記入する方式により調査を行ったもの）とのデータ・リンケージにより得られた調査票情報を用いて集計している。

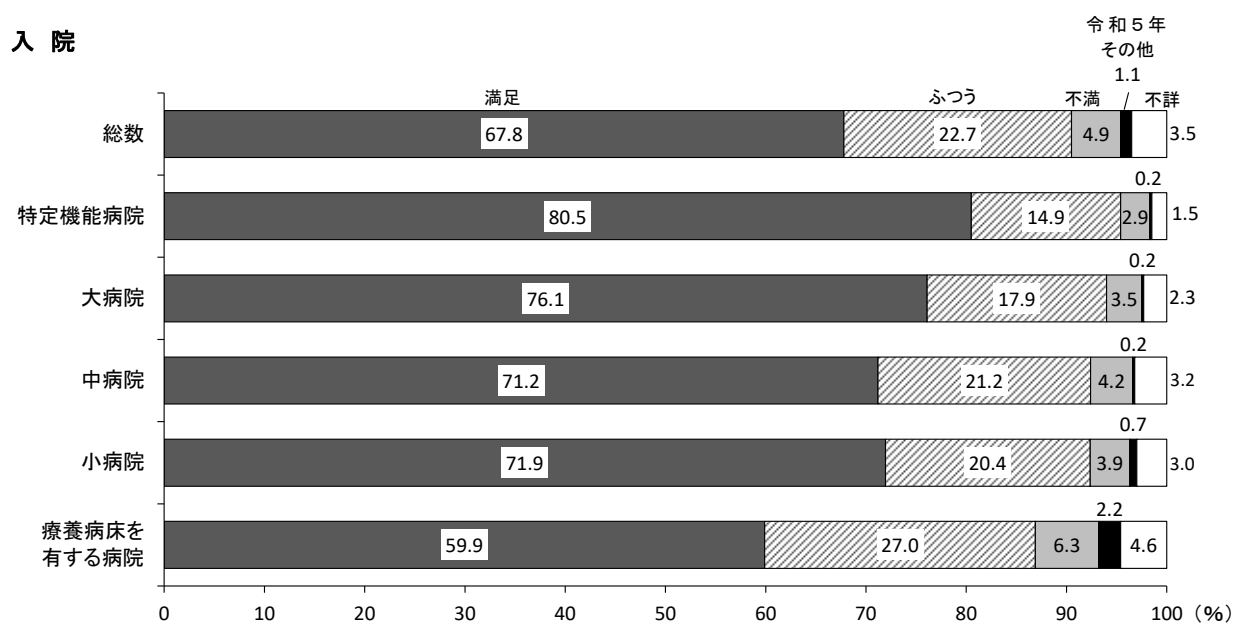
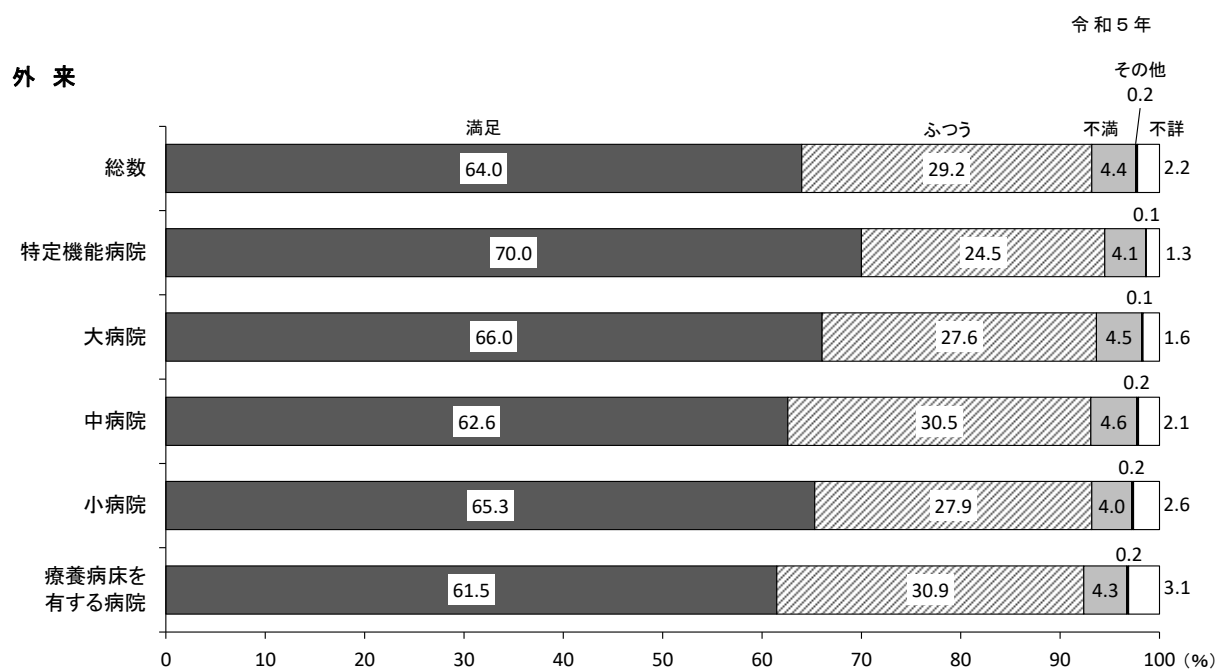
3 満足度

(1) 病院に対する全体的な満足度

全体としてこの病院に「満足」していると回答した者は、外来で 64.0%、入院で 67.8%、「不満」であると回答した者は、外来で 4.4%、入院で 4.9%となっている。

病院の種類別にみると、「満足」していると回答した者は、外来、入院ともに特定機能病院で最も高くなっている。(図9、統計表7、8)

図9 病院の種類別にみた病院に対する全体的な満足度(外来・入院)(基本集計)

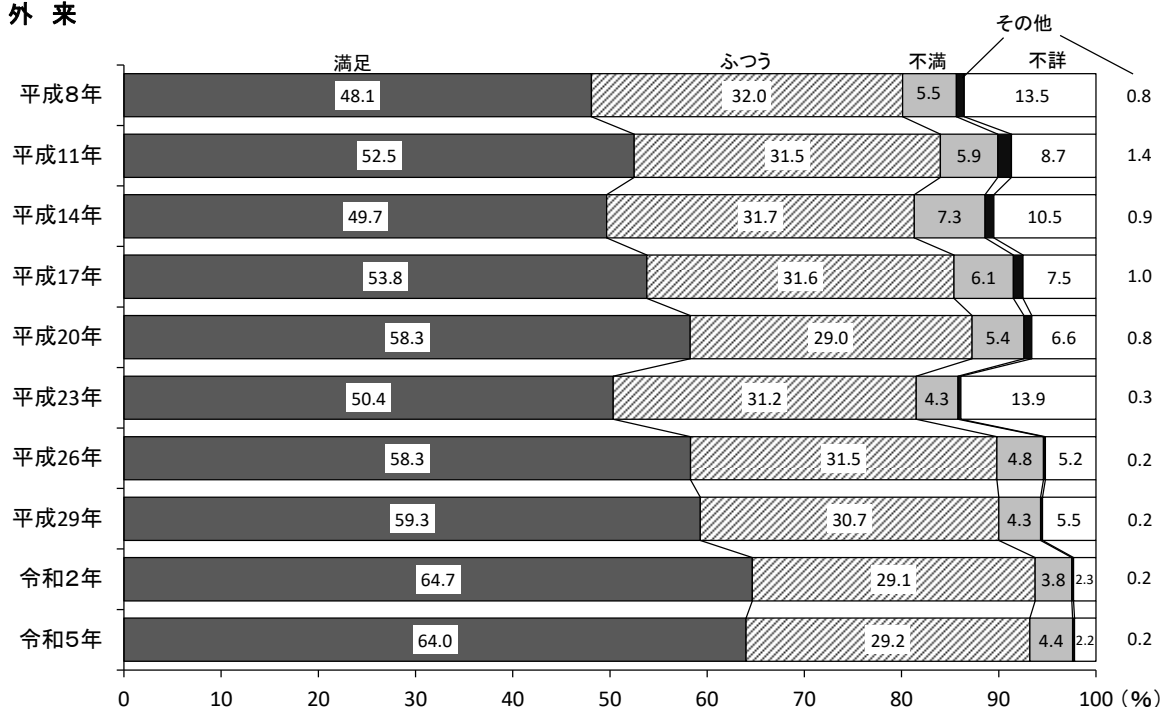


(2) 病院に対する全体的な満足度の年次推移

全体的な満足度の年次推移をみると、「満足」していると回答した者は、平成 26 年以降、外来では6割程度、入院では7割程度で推移している(図 10)。

図 10 病院に対する全体的な満足度の年次推移(外来・入院)(基本集計)

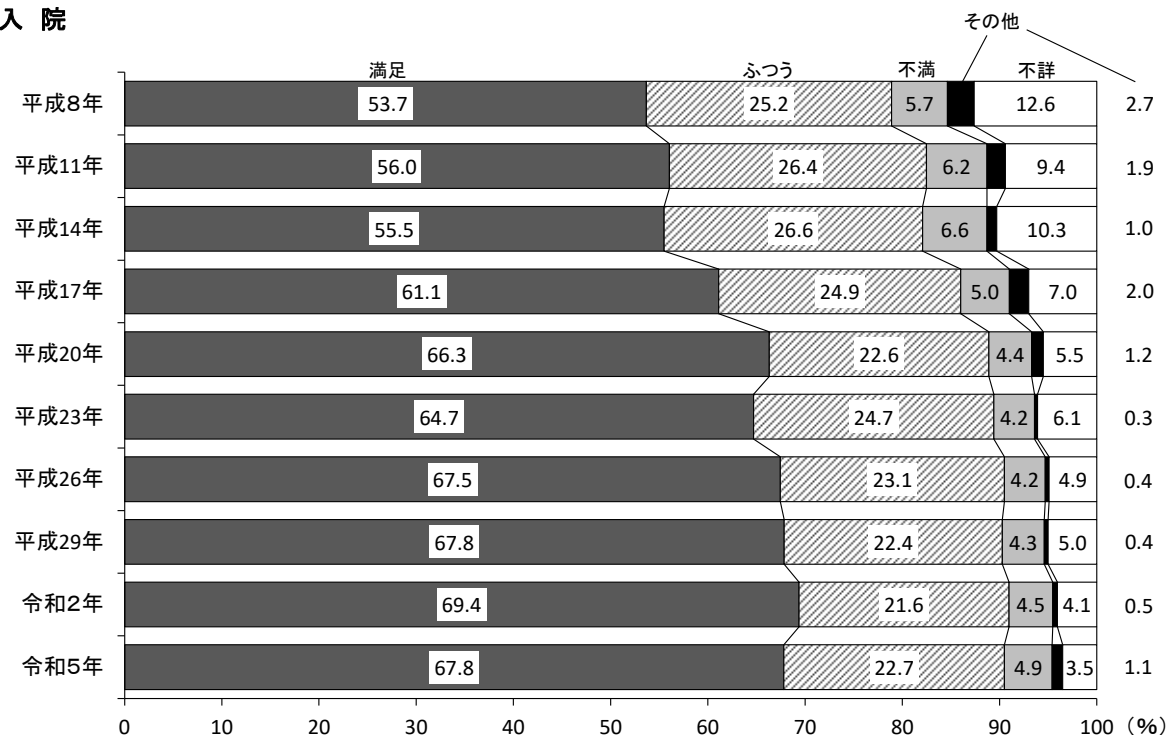
外 来



注：1)平成 23 年は、岩手県、宮城県及び福島県を除いた数値である。

2)「満足」は「非常に満足している」「やや満足している」の合計であり、「不満」は「非常に不満である」「やや不満である」の合計である。

入 院



注：1)平成 23 年は、岩手県、宮城県及び福島県を除いた数値である。

2)「満足」は「非常に満足している」「やや満足している」の合計であり、「不満」は「非常に不満である」「やや不満である」の合計である。

(3) 項目別満足度

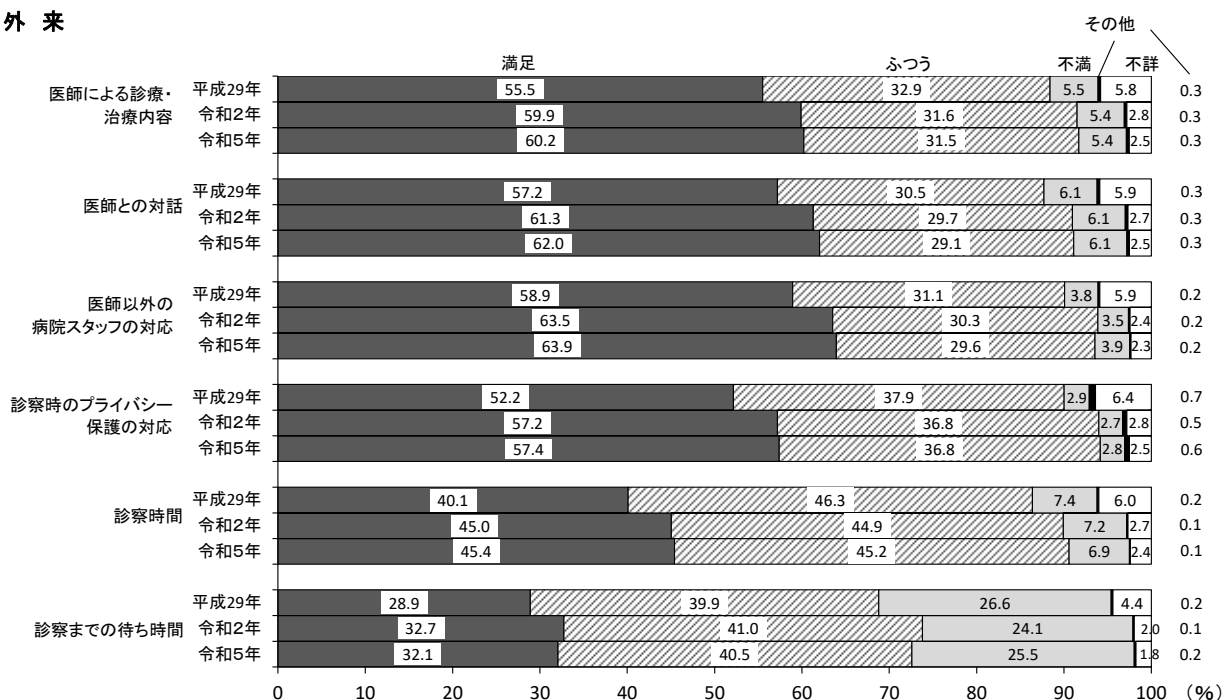
項目別の満足度をみると、「満足」していると回答した者が高いのは、外来、入院ともに「医師による診療・治療内容」「医師との対話」「医師以外の病院スタッフの対応」となっており、外来で約6割、入院で約7割となっている。

一方、「不満」であると回答した者が最も高いのは、外来では「診察までの待ち時間」が25.5%、入院では「食事の内容」が14.7%となっている。

また、前回と比べると、外来、入院ともに全ての項目で「満足」はほぼ横ばいとなっている。(図11、統計表7、8)

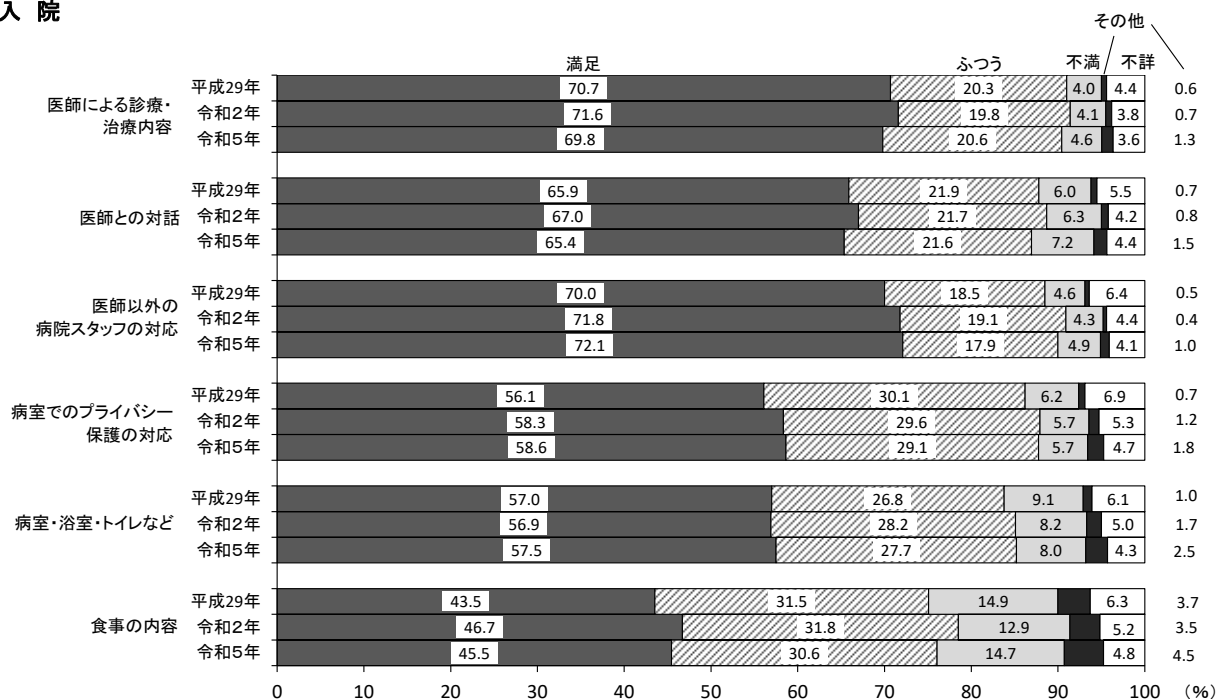
図11 項目別にみた満足度(外来・入院)(基本集計)

外 来



注：1)「満足」は「非常に満足している」「やや満足している」の合計であり、「不満」は「非常に不満である」「やや不満である」の合計である。
2)「診察時間」及び「診察までの待ち時間」は「医師に診てもらっていない」者を除いた数値である。

入 院



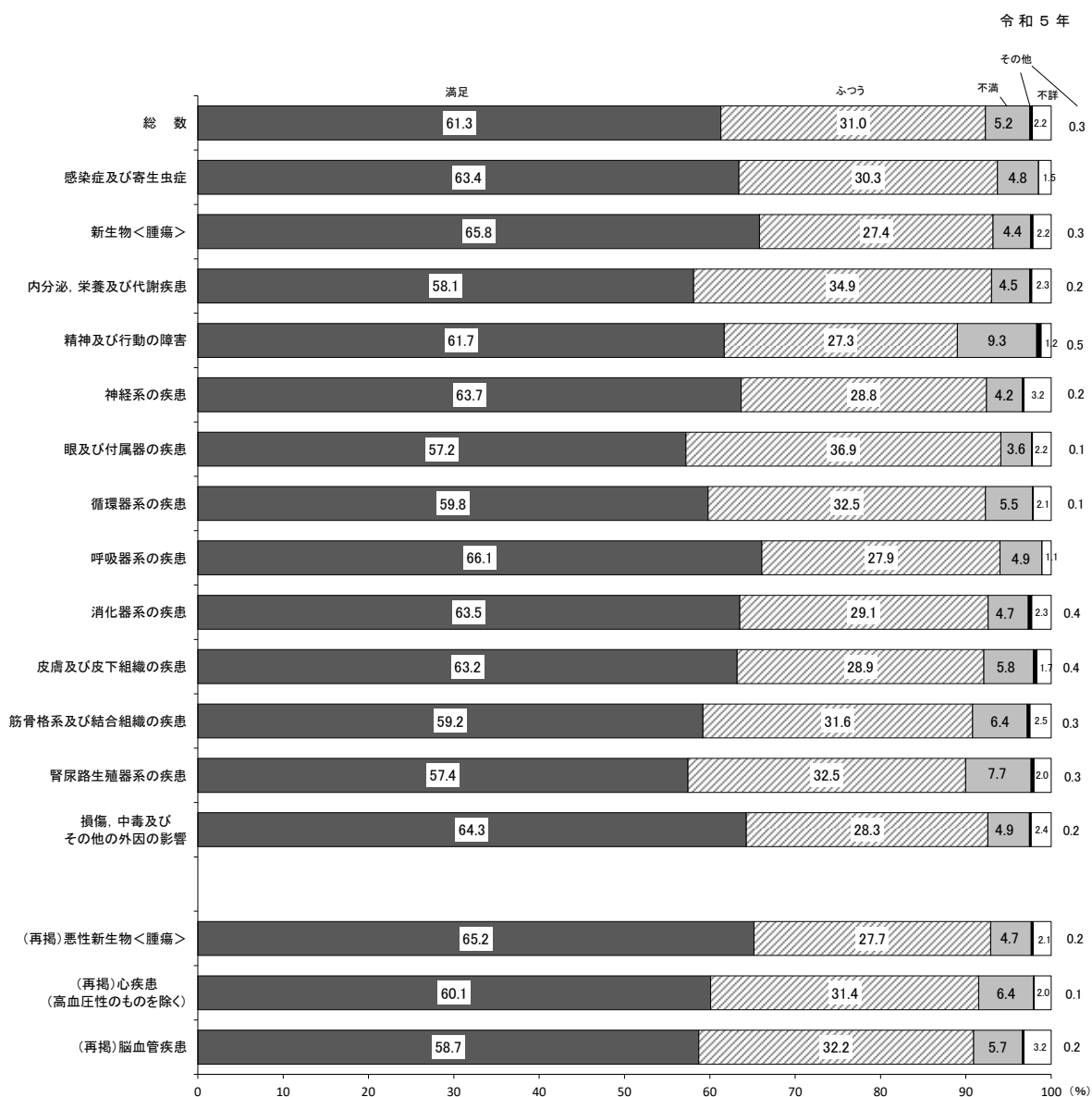
注：「満足」は「非常に満足している」「やや満足している」の合計であり、「不満」は「非常に不満である」「やや不満である」の合計である。

(4) 主な傷病分類別にみた医師による診療・治療内容に対する満足度 【関連集計】

外来患者の診療・治療内容に対する満足度を主な傷病分類別にみると、「満足」していると回答した者が高いのは、「呼吸器系の疾患」で66.1%、「新生物＜腫瘍＞」で65.8%となっている。

一方、「不満」であると回答した者が高いのは、「精神及び行動の障害」で9.3%、「腎尿路生殖系の疾患」で7.7%となっている。(図12、統計表9)

図12 主な傷病分類別にみた外来患者の医師による診療・治療内容に対する満足度(関連集計)



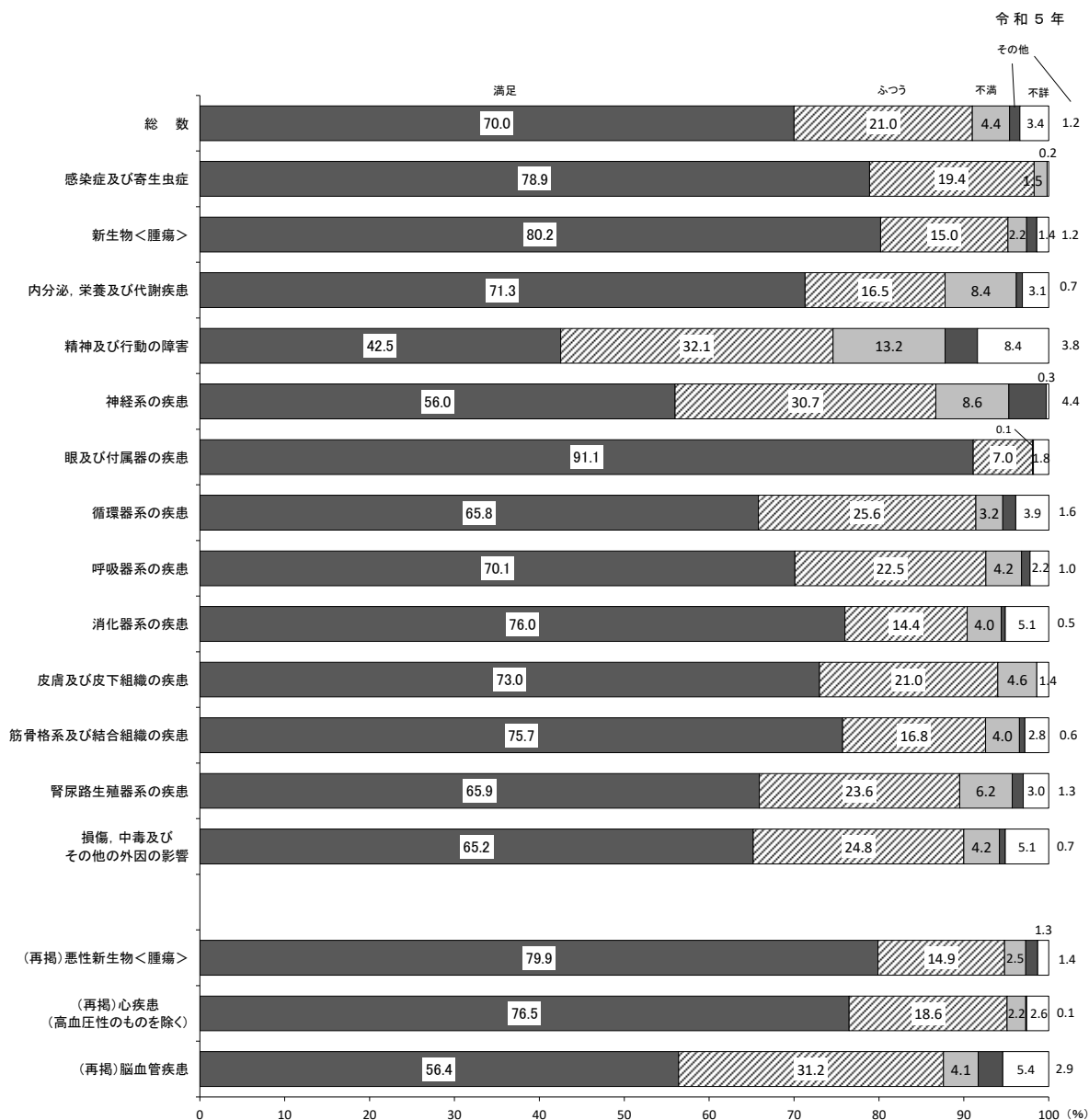
注：1)「満足」は「非常に満足している」「やや満足している」の合計であり、「不満」は「非常に不満である」「やや不満である」の合計である。

2)「主な傷病分類」は、令和5年(2023)患者調査(医療施設の管理者が記入する方式により調査を行ったもの)とのデータ・リンケージにより得られた調査票情報を用いて集計している。

入院患者の診療・治療内容に対する満足度を主な傷病分類別にみると、「満足」と回答した者が高いのは、「眼及び付属器の疾患」で91.1%、「新生物＜腫瘍＞」で80.2%となっている。

一方、「不満」と回答した者が高いのは、「精神及び行動の障害」で13.2%、「神経系の疾患」で8.6%となっている。（図13、統計表10）

図13 主な傷病分類別にみた入院患者の医師による診療・治療内容に対する満足度（関連集計）



注：1)「満足」は「非常に満足している」「やや満足している」の合計であり、「不満」は「非常に不満である」「やや不満である」の合計である。

2)「主な傷病分類」は、令和5年(2023)患者調査(医療施設の管理者が記入する方式により調査を行ったもの)とのデータ・リンケージにより得られた調査票情報を用いて集計している。